



▶ Polycom® RMX 1000™ システム
入門ガイド & リリースノート

商標情報

Polycom®、Polycom のロゴデザイン、Polycom 社製品の製品名およびマークは、Polycom, Inc. の商標および（または）サービスマークであり、米国およびその他の国における登録商標および（または）慣習法で認められたマークです。

その他のすべての商標は、それぞれの会社が所有しています。

特許情報

付随製品は、アメリカおよび諸外国の 1 つ以上の特許権によって保護されているか、Polycom, Inc. による特許申請中として保護されています。

© 2009 Polycom, Inc. All rights reserved.

Polycom, Inc.
4750 Willow Road
Pleasanton, CA 94588-2708
USA

この文書のいかなる部分も、その形態や、電子的または機械的などの手段、または目的を問わず、Polycom, Inc. の書面による許可を受けずに複製または転送することを禁止します。法律によって、他の言語への翻訳および他のフォーマットへの変換も複製と見なされます。

当事者間で、Polycom, Inc. は、この製品に含まれるソフトウェアに関するすべてのタイトル、所有権、占有権を保有します。このソフトウェアは、アメリカの著作権および国際条約規定によって保護されています。このため、このソフトウェアは、他の著作権がある物件（例：本または録音物）と同様に取り扱う必要があります。

このマニュアルに含まれる情報の正確性を期すために、あらゆる努力を傾注しました。Polycom, Inc. は印刷エラーまたは事務的エラーには責任を一切負いません。この文書中の情報は、予告なしに変更することがあります。

Regulatory Notices

United States Federal Communication Commission (FCC)

Part 15: Class A Statement. This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. Test limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates uses and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manuals, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his or her own expense.

CE & UL Mark

Polycom Inc., declares that the Polycom RMX 1000 is in conformity with the following relevant harmonized standards:

EN 60950-1:2001+A11:2004
EN 55022:2006
EN 55024:1998/A1:2001/A2:2003
EN 61000-3-2:2006
EN 61000-3-3:1995/A1:2001/A2:2005
UL Listed (USA)
CUL Listed (Canada)

Following the provisions of the Council Directive 1999/CE on radio and telecommunication terminal equipment and the recognition of its conformity.

Compliant with European Battery Directive 2006/66/EC

To comply with the European Battery Directive 2006/66/EC, dispose of weak and worn out batteries in accordance with local and national regulations.

目次

RMX 1000 V2.1 入門ガイド	1
安全についてのご注意	1
ハードウェア仕様	1
RMX 1000 の開梱と設置	2
コンフィグレーションの準備	2
ネットワーク情報の取得	2
製品アクティベーションキーの取得	3
初回のコンフィグレーション	4
PC を RMX 1000 に接続	4
Web ユーザインターフェイスへのログイン	4
デフォルト IP アドレスの変更	6
他のネットワークオプションの構成 (オプション)	7
システム時刻の同期	11
RMX 1000 V2.1 リリースノート	12
バージョン 2.1 - 新機能のリスト	12
インターオペラビリティ リスト	13
アップグレードの手順	15
バージョン 1.1 からバージョン 2.1 へのアップグレード	15
システムリカバリ	15
アップグレードしたシステムのアクティベーション	18
修正された問題 (V1.1 との比較)	20
RMX 1000 V2.1 の既知の制限	22
未解決の問題	24

RMX 1000 V2.1 入門ガイド

安全についてのご注意

システムを安全にご使用いただくため、以下のルールをお守りください。

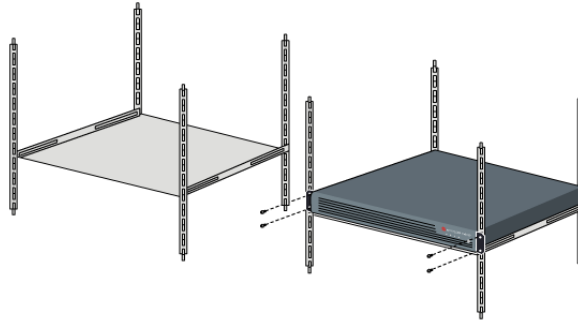
- Polycom RMX 1000 ユニットの周辺をきれいに整頓し、換気の良い状態に保ちます。
- RMX 1000 が搭載されるラックを、アース付き電源コンセントに近い適切な場所に設置します。
- ラック下部にあるレベルアジャスタを床まで完全に届くようにして、ラックの全重量をアジャスタが支えるようにします。ラックからシステムを引き出す場合は、ラックが安定していることを確認してから行います。
- ラックを 1 基だけ設置する場合は、ラックにスタビライザを取り付けます。複数のラックを設置する場合は、ラック同士を連結します。
- 電源サージおよび電圧ノイズから RMX 1000 ユニットの保護し、停電時にも動作が継続できるよう、無停電電源装置 (UPS) を使用します。
- システムの電源装置に触れる必要がある場合は、システムの電源をオフにし、電源装置の温度が十分に下がってから行います。

ハードウェア仕様

パラメータ	説明
形状	3U 19 インチ ラック マウント
高さ	132 mm
幅	430 mm
奥行	506 mm
重量	22 Kg
電源装置	温度制御 650W ATX AC 電源装置 PFC 付き
交流電圧	100~240 VAC、50~60 Hz、5~9 Amp

RMX 1000 の開梱と設置

- 1 RMX1000 を、導入先の安定した場所に設置します。
- 2 RMX1000 デバイスをパッケージから慎重に取り出します。デバイスはラックまたは平らな面に設置します。
 - RMX1000 をラックに搭載する場合は、ラックの製造元から提供されたブラケットを、RMX 1000 を設置するラックの両側に取り付けます。RMX1000 を、ラックの前面に 4 本のネジで固定します。



- ラックに搭載しない場合は、RMX1000 を平らで安全な場所に設置します。
- 3 ケーブルを RMX 1000 のバックパネルに接続します。
 - 電源ケーブルは、接触不良を防ぐために、プラグを電源ソケットにしっかりと挿入します。
 - LAN ケーブルは、RMX 1000 の LAN1 ポートに接続します。



デバイスをシャットダウンする場合は、最初に電源スイッチをオフにしてください。供給電源を直接切断したり、電源ケーブルを抜いたりしないでください。

コンフィグレーションの準備

ネットワーク情報の取得

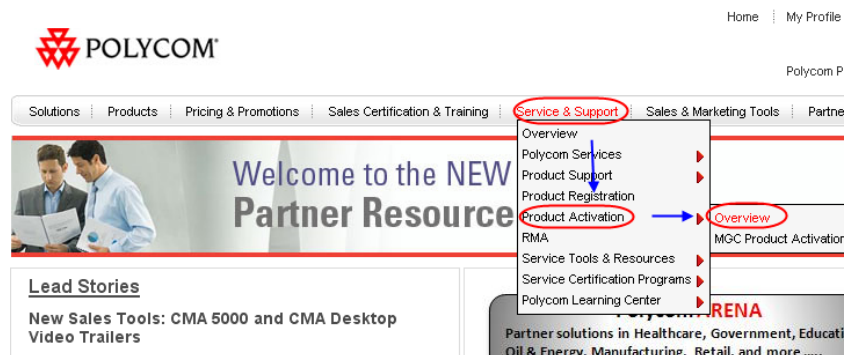
初回のコンフィグレーションを行う前に、ネットワーク管理者から以下の情報を取得します。これにより、ローカルネットワーク上で RMX 1000 を構成することができます。

- IP ネットワークタイプ (H.323、SIP、H.323 & SIP のいずれか) と関連するコンフィグレーション情報の確認
- RMX 1000 の LAN ポートの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの IP アドレス
- DNS サーバアドレス (オプション)
- ゲートキーパーの IP アドレス、RMX 1000 に割り当てる H.323 プリフィックスと E.164 番号 (ゲートキーパーを使用する場合)
- SIP サーバアドレス (オプション)

製品アクティベーションキーの取得

RMX 1000 を使用する前に、デバイスを登録してアクティベートする必要があります。製品アクティベーションキーを取得するには、次の手順を実行します。電源をオンにして RMX 1000 に初めてログインすると、[製品アクティベーション] ダイアログ ボックスが表示され、製品アクティベーションキーの入力を要求されます。

- 1 ブラウザのアドレスバーに「<http://portal.polycom.com>」と入力して、Polycom Resource Center のログインページにアクセスします。
- 2 [Login] ボックスに Email アドレスとパスワードを入力して、[Login] をクリックします。新規ユーザの場合は、[Register for An Account] リンクをクリックして登録を行います。
- 3 インターフェイス上部のナビゲーションバーにある [Service & Support] -> [Product Activation] -> [Overview] をクリックします。



- 4 [Activate Your Product] ページに移動します。[Single License Number] ペインに製品のライセンス番号とシリアル番号を入力し、[Generate] ボタンをクリックします。製品のライセンス番号とシリアル番号は、RMX 1000 に付属するドキュメントに記載されています。[キーコード] フィールドに表示されるアクティベーションキーを記録します。

Single License Number

Please enter the License Number and Serial Number of your product to generate a Key Code. To retrieve a previously enabled Key Code, please enter the product's serial number and leave License Number blank.

License Number:

Serial Number:

Key Code:

初回のコンフィグレーション

PC を RMX 1000 に接続

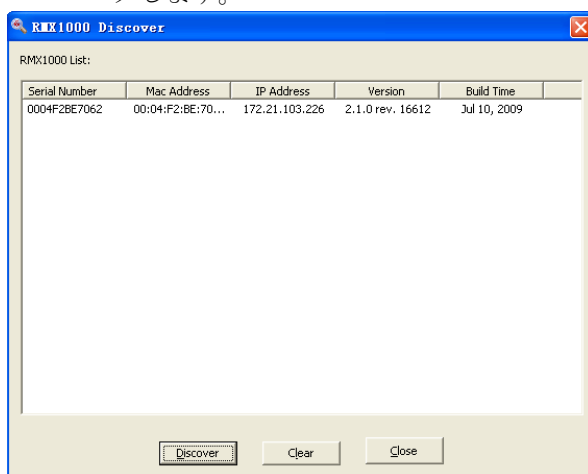
- 1 PC と RMX 1000 の LAN1 ポート (デフォルトで有効) をクロスケーブルで接続するか、PC と RMX 1000 を、同一 LAN 上の同じスイッチに接続します。RMX 1000 の電源スイッチをオンにします。
- 2 RMX 1000 の IP アドレスと同じネットワークセグメント上にある IP アドレスを PC に設定します。

出荷前の RMX 1000 のデフォルトの IP アドレスは以下のとおりです。

- LAN1 ポートの IP アドレス - **192.168.1.254**
- サブネットマスク - **255.255.255.0**
- デフォルトゲートウェイの IP アドレス - **192.168.1.1**

製品の現在のアドレス情報は、デバイスに付属する RMX 1000 Discover ツールを使用して確認することもできます。

- a. 製品に付属の CD に格納されている RMX 1000Discover.exe ファイルを実行します。
- b. デバイスの現在のアドレス情報を表示するには、[Discover] ボタンをクリックします。



RMX 1000 システムにシリアルケーブルを接続して HyperTerminal を使用することにより、RMX 1000 の初期 IP アドレスを表示して変更することもできます。詳細については、『RMX 1000 ユーザガイド』の「付録 B: Telnet/端末コマンド」の項をご参照ください。

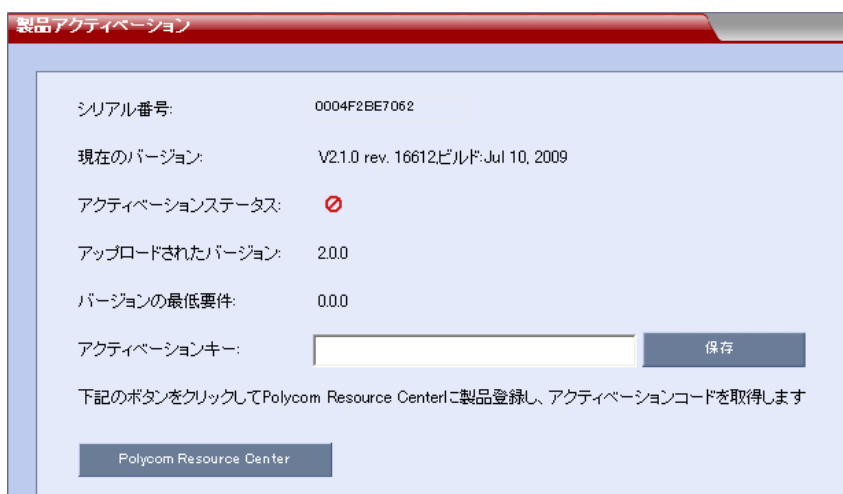
Web ユーザインターフェイスへのログイン

- 1 PC で Web ブラウザを実行します。アドレスバーに「**http://<RMX 1000 の IP address>**」と入力して、**Enter** キーを押します。
- 2 ドロップダウンメニューから Web インターフェイスの言語を選択します。選択した言語が PC のブラウザまたは OS でサポートされていない場合、コンテンツは英語で表示されます。
- 3 [ログイン] 画面で、デフォルトのユーザー名 (**POLYCOM**) とパスワード (**POLYCOM**) を入力します。[ログイン] ボタンをクリックして、Web コンフィグレーションイン



ターフェイスにログインします。



- 4 **[製品アクティベーション]** ダイアログボックスが表示されます。**[アクティベーションキー]** ボックスに **[製品アクティベーションキーの取得]** で取得したアクティベーションキーを入力し、**[保存]** ボタンをクリックします。**[閉じる]** ボタンをクリックします。



アクティベーションキーがない場合は、**[Polycom Resource Center]** ボタンをクリックして Polycom Web サイトの **[Service & Support]** ページにアクセスします。詳細については、「製品アクティベーションキーの取得」の項をご参照ください。

- 5 システムを再起動するかどうか確認するメッセージが表示されます。**[今すぐ再起動する]** をクリックして、アクティベーションを検証します。
- 6 システムが起動したら、Web インターフェイスから **[管理]** -> **[ライセンス情報]** とクリックし、アクティベーションされた機能をチェックします。アクティベーションされた機能には  が付きます。アクティベーションされていない機能には  が付きます。

ライセンス情報

リソースの合計数:	ビデオ:	20	音声:	20
RMX 1000 バージョン:	ハードウェア:	1.1	ソフトウェア:	V2.1.0-Jul 10, 2009 rev. 16612
RMX 1000 モード:	フルトランスコーディング			
内蔵スケジューラ:	✓			
暗号化:	✓			
HDCP (720P):	✓			
シリアル番号:	0004F2BE7062			

デフォルト IP アドレスの変更

RMX 1000 の Web コンフィグレーションインターフェイスにアクセスしたあと、ローカルネットワークの設定に基づいてデバイスのデフォルトの IP アドレスを変更することができます。

- 1 [RMX 管理] ペインで、[IP ネットワーク サービス] をクリックします。
- 2 [IP ネットワークサービス] コンフィグレーションペインで、右クリックして [LAN 1] -> [プロパティ] を選択します。
- 3 [LAN1] の設定インターフェイスで、ネットワーク管理者から取得した IP アドレスを設定し、デバイスがローカルネットワーク上で使用できるように構成します。

IPネットワークサービス

- > LAN1
- > LAN2
- > ルータ
- > ゲートキーパー
- > SIP サーバ
- > QoS
- > ポート
- > 電子メール

LAN1使用

DHCP IPアドレス:

サブネットマスク:

ゲートウェイ:

デフォルトに設定

NAT NAT IP:

DNSサーバアドレスの自動取得

優先DNSサーバ:

オルタネートDNSサーバ:

LAN速度:

MTU サイズ: 400-9000 バイト

パラメータ	説明
LAN1 使用	ネットワークポートを有効または無効にします。
DHCP	ネットワークに DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバが構成されている場合は、このオプションを選択して IP アドレスを自動的に取得します。 静的 IP アドレスを使用する場合は、このオプションの選択を解除します。この場合、以下の 3 つのパラメータを構成する必要があります。
IP アドレス	ネットワークポートの IP アドレスを設定します。
サブネット マスク	ネットワークポートのサブネットマスクを設定します。
ゲートウェイ	ネットワークポートのゲートウェイアドレスを設定します。 [デフォルトに設定] オプションを選択した場合は、一致する静的ルートが見つからないと、デフォルトでこのゲートウェイを通してデバイスのパケットが送信されます。デフォルトルートは、[IP ネットワークサービス] -> [ルータ] ページに表示されません。
NAT	NAT (Network Address Translation) 機能を使用すると、送信前にプライベートネットワークの IP アドレスをパブリックネットワークの IP アドレスに変換することができます。NAT を有効にするには、このボックスを選択し、外部に公開するパブリックネットワーク IP アドレスを入力します。
DNS サーバアドレスの自動取得	[DHCP] オプションと組み合わせて使用します。[DHCP] チェックボックスが選択されている場合、このオプションを選択すると、DNS サーバのアドレスがネットワーク内の DHCP サーバから自動的に取得されます。
優先 DNS サーバ/オルタナート DNS サーバ	[DNS サーバアドレスの自動取得] オプションを選択しない場合は、デバイスがドメイン名の解決に使用する優先 DNS サーバ/オルタナート DNS サーバのアドレスを、ここに入力する必要があります。
LAN 速度	LAN ポートの速度/デュプレックスモードを設定します。サポートされている速度/デュプレックスモードは、10M/100M の全二重モードまたは半二重モードと 1000M ネットワークモードです。また、 [自動] を選択して、スイッチポートとの自動ネゴシエーションを使用することもできます。 メモ: [LAN 速度] を設定する前に、スイッチのコンフィグレーションが MCU ポートと一致していることをネットワーク管理者に確認します。
MTU サイズ	IP 通話と Web 通信で使用する MTU (Maximum Transmission Unit) のサイズを指定します。ビデオ画像にブロックノイズが出たり、ネットワークエラーが発生する場合は、パケットのサイズが大きすぎる可能性があります。この場合は MTU サイズを小さくします。不要なオーバーヘッドでネットワークに負荷がかかる場合、パケットのサイズが小さすぎる可能性があります。この場合は MTU サイズを大きくします。

他のネットワークオプションの構成 (オプション)

必要に応じて、以下の手順に従って他のネットワークパラメータを構成することができます。

- 1 [RMX 管理] ペインで、**[IP ネットワーク サービス]** をクリックします。
- 2 **[IP ネットワークサービス]** コンフィギュレーションペインで、**[LAN 1]** をダブルクリックまたは右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[ルータ]** タブをクリックし、ネットワークトポロジに従ってルーティングテーブル情報を設定します。

IPネットワークサービス

- > LAN1
- > LAN2
- > ルータ
- > ゲートキーパー
- > SIP サーバ
- > QoS
- > ポート
- > 電子メール

ルータのIPアドレス	リモートIPアドレス	サブネットマスク
172.21.103.254	172.0.0.0	255.0.0.0
172.21.103.254	10.0.0.0	255.0.0.0
172.21.103.254	0.0.0.0	0.0.0.0

パラメータ	説明
ルータの IP アドレス	パケット送信の送信ルータの IP アドレスを設定します。
リモート IP アドレス	パケット送信の転送先のネットワークアドレスを設定します。
サブネット マスク	転送先ネットワークのサブネットマスクを設定します。

- 4 IP ネットワークタイプが SIP のみの場合は、手順 7 に進みます。
- 5 システムをゲートキーパーに登録するには、[ゲートキーパー] タブをクリックし、次ページの表に従って関連パラメータを構成します。

IPネットワークサービス

- > LAN1
- > LAN2
- > ルータ
- > ゲートキーパー
- > SIP サーバ
- > QoS
- > ポート
- > 電子メール

IP ネットワークタイプ: H.323 & SIP

ゲートキーパー(GK)に登録

プライマリGK 無効

ゲートキーパーの IP アドレス:

ゲートキーパーのポート:

オルタナティブGK 無効

ゲートキーパーの IP アドレス:

ゲートキーパーのポート:

システムプリフィックス/E.164:

システムH.323エイリアス:

パラメータ	説明
IP ネットワークタイプ	<p>RMX 1000 システムが通話を行うために必要な IP ネットワークタイプを設定します。RMX 1000 に接続されるエンドポイントで使用される通話タイプに基づいて、以下のいずれかの IP ネットワークタイプを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ H.323: H.323 通話のみがサポートされます。 ▪ SIP: SIP 通話のみがサポートされます。 ▪ H.323 & SIP: H.323 通話と SIP 通話が同時にサポートされます。 <p>ゲートキーパーに関連するパラメータは、H.323 ネットワークタイプが選択された場合にのみ設定することができます。</p>
ゲートキーパー(GK)に登録	ゲートキーパーに登録するかどうかを設定します。以下のパラメータを設定する場合は、このオプションを選択する必要があります。
プライマリ GK (オルタネート GK)	デバイスがプライマリ GK (オルタネート GK) に登録されているかどうかを示します。
ゲートキーパーの IP アドレス	プライマリ GK (オルタネート GK) の IP アドレスを設定します。
ゲートキーパーのポート	プライマリ GK (オルタネート GK) のポート番号を設定します。
システムプリフィックス/E164	システムの E.164 を設定します。
システム H.323 エイリアス	システムの H.323 エイリアスを設定します。

- 6 IP ネットワークタイプが H.323 のみの場合は、手順 8 に進みます。
- 7 SIP サーバを構成するには、**[SIP サーバ]** タブをクリックし、次ページの表に従って関連パラメータを構成します。

IPネットワークサービス

- > LAN1
- > LAN2
- > ルータ
- > ゲートキーパー
- > **SIP サーバ**
- > QoS
- > ポート
- > 電子メール

IP ネットワークタイプ: H.323 & SIP

トランスポートタイプ: TCP

サーバへ登録

プライマリサーバ 登録に失敗しました
 サーバアドレス:
 サーバのポート:
 サーバのドメイン名:

オルタネートサーバ 未登録
 サーバアドレス:
 サーバのポート:
 サーバのドメイン名:

ユーザ名:
 パスワード:

送信プロキシサーバ
 サーバの IP アドレス:
 サーバのポート:

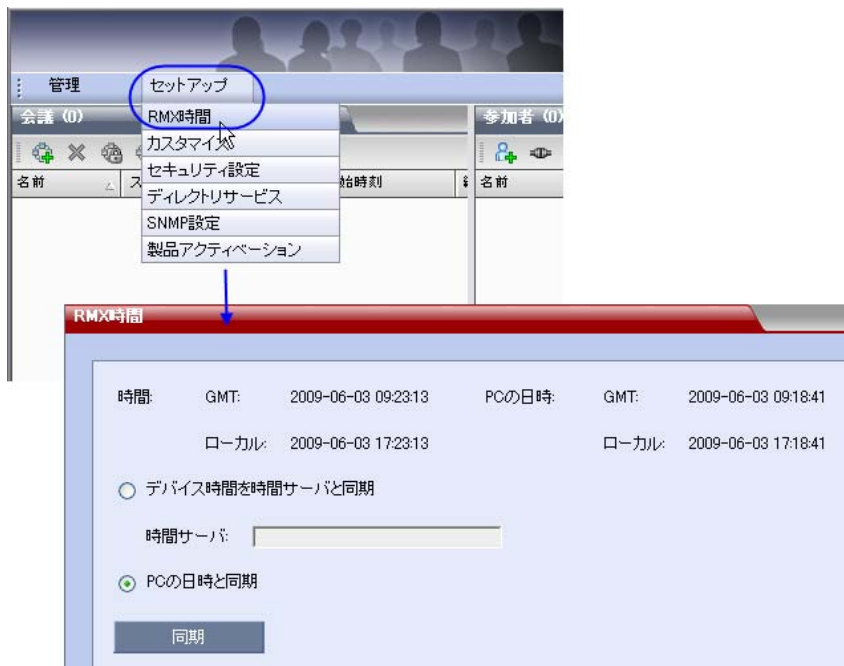
パラメータ	説明
IP ネットワークタイプ	<p>RMX 1000 システムが通話を行うために必要な IP ネットワークタイプを設定します。RMX 1000 に接続されるエンドポイントで使用される通話タイプに基づいて、以下のいずれかの IP ネットワークタイプを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ H.323: H.323 通話のみがサポートされます。 ▪ SIP: SIP 通話のみがサポートされます。 ▪ H.323 & SIP: H.323 通話と SIP 通話が同時にサポートされます。 <p>SIP サーバに関連するパラメータは、SIP ネットワークタイプが選択された場合にのみ設定することができます。</p>
トランスポートタイプ	<p>SIP サーバとの通信に使用されるトランスポートレイヤ プロトコルを設定します。このプロトコルは、SIP サーバでサポートされるプロトコルと一致する必要があります。</p>
サーバへ登録	<p>RMX 1000 を、指定された SIP サーバに登録するかどうかを指定します。この機能を有効にした後に、SIP サーバ関連パラメータを設定する必要があります。</p>
プライマリサーバ オルタネートサーバ	<p>SIP サーバの登録状態が表示されます。</p> <p>プライマリサーバの登録に失敗すると、オルタネートサーバが現在使用中の SIP サーバとして機能します。</p>
サーバアドレス	<p>登録サービス用の SIP サーバの IP アドレスを指定します。</p>
サーバのポート	<p>登録サービス用の SIP サーバの接続ポートを指定します。</p>
サーバのドメイン名	<p>登録サービス用の SIP サーバのドメイン名を指定します。</p>
ユーザ名	<p>SIP サーバが、登録ユーザとして指定したユーザ名です。</p>
パスワード	<p>上記のユーザ名に対応するパスワードです。</p>
送信プロキシサーバ	<p>RMX 1000 システムを内部ネットワーク上に設置した場合に SIP サーバと通信するには、ファイアウォール/NAT 越えに、送信プロキシサーバが必要です。この場合、送信プロキシサーバの IP アドレスとポート番号を設定する必要があります。</p>

8 [OK] ボタンをクリックして、コンフィグレーションを完了します。

システム時刻の同期

RMX 1000 システムを使用して会議を開催するには、最初にシステム時刻の同期をとり、会議スケジュールの時刻とローカル時刻とを一致させる必要があります。

- 1 Web インターフェイスで、**[セットアップ]** -> **[RMX 時間]** の順に選択して、システム時刻のコンフィギュレーションインターフェイスを表示させます。



- 2 時刻の同期モードを、以下の中から選択します。
 - デバイスの時刻をネットワーク タイム サーバの時刻に合わせるには、**[デバイス時間を時間サーバと同期]** オプションを選択します。この場合、時間サーバの IP アドレスまたはドメイン名を [時間サーバ] フィールドに入力します。
 - デバイス時刻をユーザの PC の時刻に合わせるには、**[PC の日時と同期]** オプションを選択して、デバイスの時刻を PC の時刻と同期させます。
 - 3 **[同期]** ボタンをクリックし、同期処理を実行します。**[閉じる]** をクリックします。
- これで、システムが使用できる状態になります。他のコンフィギュレーションについては、『RMX 1000 ユーザガイド』をご参照ください。

RMX 1000 V2.1 リリースノート

バージョン 2.1 - 新機能のリスト

項目	機能	説明
使いやすさ	パーソナルスキンと UI のカスタマイズ	バージョン 2.1 では、Web UI のための独自のロゴ、ビデオレイアウトのスキン、ログイン画面に表示するカスタマイズしたウェルカムメッセージをアップロードすることができます。
	CMA ゲートキーパー/ LDAP アドレス帳との統合	RMX 1000 のアドレス帳は、CMA サーバのグローバルアドレス帳と同期して、各デバイスのプレゼンスを表示するように設定することができます。
	カレンダー予約表示	バージョン 2.1 では、予約操作にカレンダー表示モードが追加されたため、ユーザは Outlook と同様のインターフェイスで会議をスケジュールすることができます。
	会議間での移動	バージョン 2.1 では、Continuous Presence 会議間での参加者の移動がサポートされます。暗号化されていない会議と暗号化されている会議の間では移動はできません。
	会議参加者のスナップショット	バージョン 2.1 では、管理者は、接続されている会議参加者からのビデオのスナップショットを見ることができます。
	オンラインヘルプ	バージョン 2.1 ではオンラインヘルプが追加され、ユーザは Web UI を通じてアクセスすることができます。オンラインヘルプは、日本語と英語に対応しています。
	リソース使用状況バーの改善	バージョン 2.1 では、リソース使用状況バーの改善によって、リソース使用状況のより詳細な情報が提供され、グラフ表示できるようになりました。
	招待の改善	バージョン 2.1 では、ユーザは Ad Hoc 会議を生成し、リモコンを使用して他のエンドポイントをすぐに招待することができます。
	エコー除去	バージョン 2.1 では、エコーとキーボードノイズを抑制するエコー除去テクノロジーにより、音声性能が改善されました。
	ステレオ IVR	バージョン 2.1 では、IVR メッセージのステレオ再生がサポートされます。
PCM (Personal Conference Management) の改善	バージョン 2.1 では PCM インターフェイスが強化され、グローバルアドレス帳経由での参加者の招待、チェアパーソン権限の要求、会議の録画などの機能が追加されました。	

項目	機能	説明
インターオペラビリティ/セキュリティ	MTU サイズの設定	バージョン 2.1 では、LAN 接続の MTU サイズを設定することができます。
	レガシーエンドポイントのコンテンツサポート	H.239 非対応のエンドポイントが、会議の人物ビデオの代わりにビデオチャンネルでコンテンツを受信できるかどうか選ぶことができます。
	SSL のサポート	バージョン 2.1 では、Web UI への SSL/Https 接続がサポートされ、セキュリティが向上しました。
	参加者が残り 1 拠点になった場合の自動終了	このオプションにより、接続されている参加者が 1 拠点のみになったとき、会議を自動終了させることができます。
VC2	SIP のサポート	バージョン 2.1 では SIP がサポートされます。
	SNMP のサポート	バージョン 2.1 では SNMP がサポートされます。
	CMA のサポート	バージョン 2.1 では、CMA との完全な統合がサポートされます。
	録画インジケータ	RMX 1000 を設定して、会議が録画されているとき、会議ビデオに録画アイコンを表示させ、会議参加者に、会議が録画されていることを告知することができます。
	G.719 のサポート	バージョン 2.1 では G.719 がサポートされます。
新しいアルゴリズム	Video Clarity	このアルゴリズムにより、低ビットレートまたは低解像度で接続されているエンドポイントで、受信するビデオの画質が改善されます。

インターオペラビリティ リスト

RMX 1000 V2.1 でテストされたデバイスのインターオペラビリティ リストを、次ページに示します。

これらのデバイスは、最新バージョンにアップグレードして使用されることをお勧めいたします。H.323 または SIP をサポートする他のタイプのデバイスについても、できるかぎり調査および情報の提供に努力いたします。

製品タイプ	メーカー	モデル	バージョン (下記バージョンまたはそれ以降)
エンドポイント	Polycom	HDX シリーズ	2.0.2 - 2461
		VSX シリーズ	9.0.1
		QDX 6000	3.0
		V500	9.0.5
		ViewStation FX	6.0.5
		VS 4000	6.0.5
		ViewStation EX	6.0.5
		ViewStation SP	7.5.4.1
		ViewStation 512	7.5.4.1
		iPower 9000	6.2.0
		PVX	8.0.4
		CMA Desktop	4.1.0
		DST B5	2.0.0
		DST K60	2.0.1
	Tandberg	MXP 770/990	F4.0
		1700 MXP	F8.0
		Edge95 MXP	F8.0
		880 E	E5.3
	Aethra	Vega Star Gold	6.0.49
	Sony	PCS1	3.2.2
PCS-G70		2.63	
LifeSize	Room system	1_4.1(17)	
MCU	Polycom	RMX 2000	2.0
		MGC	8.0
ゲートキーパー	Polycom	CMA 5000	4.0.1
		SE 200	2.1
		PathNavigator	7.0.11
VoIP 電話	Polycom	VVX 1500	3.1.2
	Polycom	SoundPoint IP670	3.1.2
レコーダ	Polycom	RSS 2000	4.0

アップグレードの手順

バージョン 1.1 からバージョン 2.1 へのアップグレード



必要な 2 つのパッケージが RMX 1000 に正常にアップロードされるまでは、システムを再起動しないでください。アップロードが完了する前にシステムを再起動すると、アップグレードが失敗し、Web インターフェイスが使用できなくなります。この問題が発生した場合、デバイスに付属する RMX 1000 Rescue ユーティリティを使ってアップグレードを復元することができます。詳細については、「システムリカバリ」の項をご参照ください。

- 1 Polycom の Web サイトから、必要なソフトウェアバージョン 2.1 (xx-File Systems-xx.ppm と xx-Kernel Systems-xx.ppm) をダウンロードします。
- 2 **[システムのアップグレード]** ページで、ソフトウェアバージョン 2.1 の 2 つのアップグレードパッケージをインストールします。
- 3 ライセンス契約の内容を確認し、使用条件を承諾する場合は **[ライセンス契約 (右のリンク)]** の内容を確認しました。契約に同意します。「ライセンス契約」を選択します。
- 4 **[開く]** をクリックし、バージョン 2.1 のファイルが保存されているフォルダ内の *Kernel Systems* パッケージ (.ppm) を選択して、**[ファイルのアップロード]** をクリックします。
- 5 「ソフトウェアのアップロードに成功しました - システムをリブートして、新しいバージョンを今すぐにアクティベートしますか、それとも後でアクティベートしますか?」と表示されたら、**[後で再起動]** をクリックします。システムはまだ再起動しないでください。
- 6 引き続き、手順 4 にしたがって、*File Systems* パッケージ (.ppm) をアップロードします。
- 7 システムを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**[今すぐ再起動する]** をクリックしてシステムを再起動します。

このアップグレードでは、アップグレードのアクティベーションキーをインストールする必要があります。システムの再起動が完了したら、Web インターフェイスにログインしてシステムをアクティベートします。操作の詳細については、「アップグレードしたシステムのアクティベーション」の項をご参照ください。

2 つのパッケージのアップロードが完了する前に誤ってシステムを再起動したため、アップグレードに失敗した場合、以下の手順にしたがって、システムの修復を行います。

システムリカバリ



Polycom サポートチームと RMA または DOA のプロセスを開始する前に、以下の手順で修復を試みます。

- 2 つのアップグレードファイルのアップロード中に誤ってシステムがリセットされたなどの理由により、万が一アップグレードに失敗した場合、以下の手順に従ってアップグレードを復元することができます。
 - 1 Hyperterminal を使って RMX 1000 システムをレスキューモードで起動します。

- 2 付属の CD に格納されている **RMX 1000 Rescue** ユーティリティを使って、ソフトウェアパッケージをリロードします。(あるいは、Polycom サポートチームにお問い合わせください。)

以下の項では、これら 2 つの手順について説明します。

RMX 1000 システムをレスキューモードで起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 RS232 シリアルケーブルを使って、RMX 1000 のシリアルポートとユーザの PC を接続します。
- 2 PC で Hyperterminal を実行し、パラメータを以下のように設定します。
 - [ポート]: COM1 (PC で使用されるポートに基づいて決定)
 - [ボーレート]: 115200 bps
 - [データ]: 8
 - [パリティ]: なし
 - [ストップビット]: 1
- 3 [コンソール] セッションで、**Enter** キーを押します。ログインインターフェイスが表示されます。ログインパスワードを入力したら、**Enter** キーを押します。デフォルトのパスワードは **POLYCOM** (すべて大文字) です。

```

Welcome to Polycom RMX 1000 Console Utility
Copyright (C) 2008 POLYCOM
password: _
    
```

- 4 **Reboot** コマンドを入力し、**Y** キーを押します。システムを手動で再起動することもできます。画面に下記のメッセージが表示されても、**スペースバー**を押さないでください。

```

Press <SpaceBar> to update BIOS.
    
```

- 5 約 50 秒間待機し、画面に次のメニューが表示されたら、“**rescue**” をハイライトして **Enter** キーを押します。

```

GNU GRUB version 0.97 (639K lower / 2095936K upper memory)

normal
rescue

Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, 'a' to modify the kernel arguments
before booting, or 'c' for a command-line.
    
```

上記のインターフェイスで 5 秒以上操作を実行しないと、自動的に通常モードに戻ります。その場合は、システムを再起動して、再度 **“rescue”** を選択する必要があります。

- 6 システムが約 1 分間スタートアップ状態になります。画面に現在の IP アドレスが表示されると、システムはレスキューモードで実行されています。

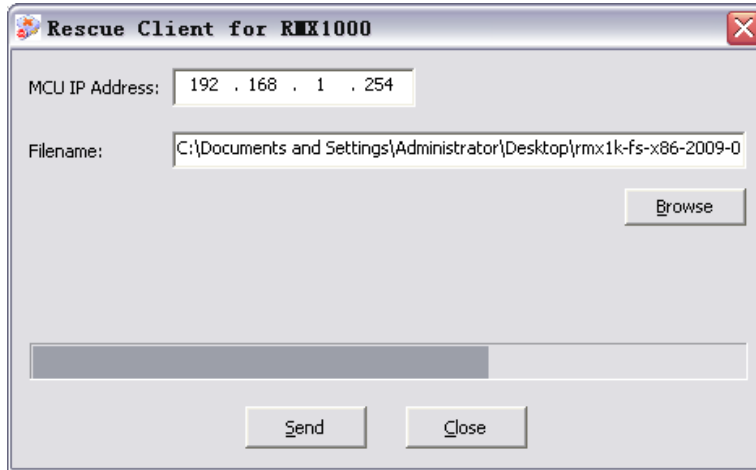
```

EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
EXT3 FS on hda1, internal journal
EXT3-fs: mounted filesystem with ordered data mode.
kjournald starting. Commit interval 5 seconds
EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
EXT3 FS on hda2, internal journal
EXT3-fs: recovery complete.
EXT3-fs: mounted filesystem with ordered data mode.
kjournald starting. Commit interval 5 seconds
EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
EXT3 FS on hda3, internal journal
EXT3-fs: mounted filesystem with ordered data mode.
kjournald starting. Commit interval 5 seconds
EXT3-fs warning: maximal mount count reached, running e2fsck is recommended
EXT3 FS on hda4, internal journal
EXT3-fs: recovery complete.
EXT3-fs: mounted filesystem with ordered data mode.
cat: can't open '/etc/resolv.conf.eth1': No such file or directory
System started.

-----
LAN1 IP: 192.168.1.254/24
-----
    
```

RMX 1000 Rescue ツールを使用してソフトウェアパッケージをアップロードするには、以下の手順を実行します。

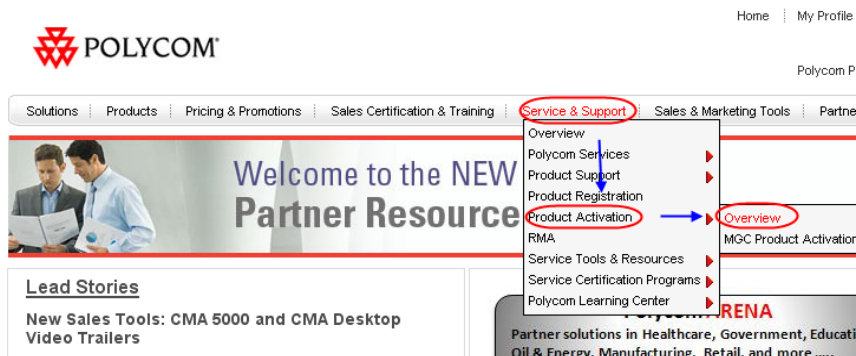
- 1 ソフトウェアパッケージのアップロードに使用する PC で、製品に付属の CD にある RMX 1000 Rescue ユーティリティを実行します。PC が RMX 1000 と通信できることを必ず確認します。
- 2 **Rescue Client for RMX 1000** のインターフェイスで、MCU IP Address を入力して **[Browse]** ボタンをクリックし、バージョン 2.1 ファイルが保存されているフォルダで、*Kernel Systems* パッケージ (.ppm) を選択します。
- 3 **[Send]** をクリックすると進捗バーが表示され、PC が MCU との接続を確立している場合は、アップロードの進捗状況が示されます。



- 4 システムを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[No] をクリックします。
- 5 引き続き、手順 2 と手順 3 にしたがって、*File Systems* パッケージ (.ppm) をアップロードします。
- 6 システムを再起動するかどうか確認するメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックしてアップロードを完了します。

アップグレードしたシステムのアクティベーション

- 1 Web インターフェイスにログインします。[製品アクティベーション] ページが表示され、アップグレードしたデバイスをアクティベートするために、アクティベーションキーを入力するよう求められます。ページの [Polycom Resource Center] ボタンをクリックして、*Polycom Resource Center* のログインページを開きます。
- 2 Email アドレスとパスワードをログインボックスに入力し、[Login] をクリックします。新規ユーザの場合は、[Register for An Account] リンクをクリックして登録を行い、ログインパスワードを取得します。
- 3 ログインに成功したら、インターフェイス上部のナビゲーションバーにある [Service & Support] をクリックし、さらに [Product Activation] -> [Overview] の順にクリックします。



- 4 [Activate Your Product] インターフェイスが表示されます。[Software Upgrade Key Code] エリアで、[Retrieve Software Key Code] ボタンをクリックします。
- 5 [Single Upgrade Key Code] エリアで、デバイスの「シリアル番号」と「バージョン番号 (2.1)」を入力し、[Retrieve] ボタンをクリックして、システムのアップグレードに必要な「キーコード」を生成します。製品のシリアル番号は、RMX 1000 に付属するドキュメントに記載されています。

Retrieve Your Upgrade Key Code

Single Upgrade Key Code

To retrieve the latest software upgrade Key Code for your system, please enter the complete system Serial Number, the Version Number that you want to install and then click **Retrieve**.

***Serial Number:** **Model:**

***Version:** Need Help?

- 6 [製品アクティベーション] ページで、取得したキーコードを [アクティベーションキー] 入力ボックスに入力します。最後に [保存] ボタンをクリックして、RMX 1000 をアクティベートします。
- 7 システムの再起動後、Web インターフェイスにログインして [管理] > [ライセンス情報] ページにアクセスすると、ソフトウェアバージョンが V2.1 に変更され、購入したオプションがアクティベートされているのを確認することができます。

ライセンス情報

リソースの合計数:	ビデオ:	20	音声:	20
RMX 1000 バージョン:	ハードウェア:	1.1		
	ソフトウェア:	V21.0-Jul 10, 2009 rev. 16612		
RMX 1000 モード:	フルトランスコーディング			
内蔵スケジューラ:	✓			
暗号化:	✓			
HDCP (720P):	✓			
シリアル番号:	0004F2BE7062			

これで、アップグレードされたデバイスを使用できる状態になります。

修正された問題 (V1.1 との比較)

JIRA 番号	項目	概要
DSTC-53	時刻の同期	すでに予約が入っている場合、RMX 1000 の時刻の同期を行うことができないという問題が修正されました。
DSTC-176	時刻の同期	最初の同期に成功した後、または再起動の後に、「RMX 時間」の同期がとれないという問題が修正されました。
DSTC-62	アクティベーションキー コード	Web UI のロックアウトを解決するために、コンソールで "cleankey" コマンドを入力する必要があるというキーコードの問題が修正されました。
DSTC-63	V2IU との統合	V2IU の背後にある 1 拠点目のサイトとのみ接続が可能で、同じ IP アドレスからの 2 拠点目のサイトとの接続はできないという問題が修正されました。
DSTC-73	コンテンツ	RMX 1000 から HDX への人物ビデオ の送信ビットレートが、H239 コンテンツの送信停止後も増加しないという問題が修正されました。
DSTC-91	ビデオ品質の改善	アクティブな話者のサイトが切り替わったとき、RMX 1000 からのビデオの品質が低下するという問題が修正されました。
DSTC-108	ビデオ品質の改善	RMX 1000 からの送信ビットレートが低い場合、そのビデオ品質が低下するという問題が修正されました。
DSTC-150	ビデオ品質の改善	帯域幅が + 8 MB (CPU 使用率が %60 以上)のとき、サイト名のちらつきやビデオアーチファクトなどが発生するという問題が修正されました。
DSTC-124	ビデオ品質の改善	HD 会議の途中で、"スキン" とエンドポイントの "サイト名" がちらついたり、音声聞こえなくなるという問題が修正されました。
DSTC-94	QoS	Web インターフェイスからの QoS の設定で DiffServ を選択したとき、RMX 1000 の再起動後、設定値がデフォルトに戻ってしまうという問題が修正されました。
DSTC-116	音声品質の改善	RMX 1000 での 3 者通話中に音声聞こえなくなるという問題が修正されました。
DSTC-174	音声品質の改善	システムを再起動するまで、RMX 1000 の音声品質が徐々に低下し続けるという問題が修正されました。
DSTC-112	HDX とのインターオペラビリティ	RMX 1000 が、1024 Kbps の "Up to H264 720p" 会議で、HDX 4000 に対して H264 CIF のビデオを送信するという問題が修正されました。
DSTC-146	HDX とのインターオペラビリティ	HDX が、RMX 1000 の "Up to H264 4SIF/4CIF" 会議に接続されているとき、4SIF ではなく SIF で受信するという問題が修正されました。
DSTC-120	予約	定期予約で事前に定義されていた参加者が、1 日後または 2 日後に消失してしまうという問題が修正されました。
DSTC-139	予約	ローカルの日付と GMT の日付が異なると、予約した会議が開始されないという問題が修正されました。
DSTC-145	ミーティングルーム	作成済みミーティングルームの一部の設定が失われ、そのミーティングルームにアクセスできなくなるという問題が修正されました。

JIRA 番号	項目	概要
DSTC-137	レコーディングリンク	RSS 2000 が、RMX 1000 のレコーディングリンクで設定された即時録画を開始しないという問題が修正されました。
なし	IVR	<p>デフォルトの日本語 IVR メッセージのうち、下記の 3 メッセージを修正し、これらを含む V2.1 用の全 10 メッセージを Polycom の Web サイトに掲載しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ポリコム多地点会議サーバに接続されました。」(ウェルカムメッセージ) ▪ 「この会議は録画されています。」 ▪ 「この会議の録画に失敗しました。」 <p>V2.1 より前のバージョンでデフォルトの日本語 IVR メッセージを使用され、今回、V2.1 にアップグレードされたユーザは、これらの修正された日本語 IVR メッセージをアップロードされるようお勧めします。</p>

RMX 1000 V2.1 の既知の制限

項目	説明
ゲートキーパーへの登録	ゲートキーパーに登録されたエンドポイントから他の参加者を会議に招待する場合、ダイヤル文字列の後に、* と、その参加者の E.164 プリフィックスを付け加える必要があります。
ゲートキーパーへの登録	ゲートキーパーに登録されたエンドポイントをアドレス帳に追加するときは、E.164 プリフィックスのみを入力し、IP アドレスは空白のままにしておくことをお勧めします。IP アドレスも指定すると、ゲートキーパーがルータモードに設定されている場合、RMX 1000 からエンドポイントへの接続ができない場合があります。
ゲートキーパーへの登録	ゲートキーパーに登録できる LAN インターフェイスは 1 つだけです。
ゲートキーパーへの登録	ConferenceAdapter Ver 2.5.0 のゲートキーパーはサポートされません。
録画	ビデオスイッチングと HD 720p のプロファイルでは、録画表示はサポートされません。
録画	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 録画の停止後、25 秒以上経過しないと、録画を再開することはできません。 ▪ RMX 1000 がゲートキーパーに登録されておらず、レコーディングリンクが IP アドレスと E.164 の両方で設定されている場合、レコーディングリンクへの接続ができません。
予約	予約リスト上に、定期予約に含まれるすべての予約が表示されていない場合でも、その定期予約のうち特定の予約を削除することは可能です。
アップグレード	RMX 1000 のアップグレードに使用した Internet Explore を、アップグレード完了後も閉じないままにしておく、Internet Explorer はバッファメモリの古い情報を保持し、RMX 1000 から新しいバッファ情報の取得を行いません。この問題を回避するには、RMX 1000 のアップグレード完了後に Internet Explorer を再スタートさせます。
ViewStation との統合	RMX 1000 は、ビデオスイッチング会議の場合、ViewStation エンドポイントとは H.261 でネゴシエーションを行います。
管理インターフェイス	[ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する] オプションが無効の場合、Internet Explorer は、RMX 1000 の管理インターフェイスを正しく表示することができません。
MGC とのカスケード接続	RMX 1000 の会議通信速度は、MGC の会議通信速度と同じか、それ以上でなければなりません。
PCM (Personal Conference Manager)	<p>HD ビデオスイッチングと H.264 720p の両プロファイルは、PCM をサポートしません。</p> <p>これらを使用した会議にダイヤルするには、以下のいずれかの方法でダイヤルインする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ロビーからのアクセス(会議へのアクセスに ID を使用) ▪ IP ## NID ## パスワード ▪ [プリフィックス][NID]## パスワード
Email による通知	Email による通知は SMTP をサポートしています。
720p の会議	通信速度が 832 Kbps 以上の会議では、720p をサポートします。

項目	説明
4CIF の会議	通信速度が 256 Kbps 以上の会議では、4CIF をサポートします。
CIF の会議	通信速度が 64 Kbps 以上の会議では、CIF をサポートします。
AES の会議	<ul style="list-style-type: none"> ▪ H.323 エンドポイントでは、ロビー経由で AES 会議にアクセスすることはできません。この会議タイプにダイヤルするには、エンドポイントから対象の会議に直接ダイヤルする必要があります。 ▪ AES 暗号化を使用するプロファイルをデフォルトのプロファイルとして設定することはできません。(これは、ロビーから Ad Hoc 会議を作成するときにデフォルトのプロファイルが使用されるためです。)
RMX 2000 との統合	RMX 1000 は RMX 2000 との H.239 カスケードをサポートしていますが、この会議に LPR と H.264 コンテンツを定義することはできません。
SE 200 との統合	RMX 1000 と SE 200 との統合が正常に機能するためには、まず、RMX 1000 を SE 200 のデバイスリストに手動で追加しておく必要があります。これにより、RMX 1000 を SE 200 に登録できるようになります。
SIP での AES サポート	SIP プロキシは、TLS をサポートしている必要があります。
人物ビデオの接続ステータス	ビデオスイッチング会議では、エンドポイントのビデオフォーマットは不明です。
音声のみのエンドポイント	会議の作成またはミーティングルームのアクティベーションは実行できません。
DTMF	エンドポイントが最初に RMX 1000 に接続したとき、エンドポイントから送信される DTMF トーンは、最初の 5 秒間無視されます。
LDAP	LDAP 経由でインポートされるグローバルアドレス帳の参加者の場合、プレゼンス情報を利用することはできません。
アドレス帳	エクスポートできるのはローカルアドレス帳のみです。また、アドレス帳上のグループはエクスポートされません。
IVR ファイル	ミュージックファイルの最大サイズは 16 MB です。そのうち、呼出音のサイズは 1 MB で、その他の IVR ファイルのサイズは 500 KB です。
SIP の FECC	RMX 1000 が BroadSoft SIP サーバに登録されている場合、FECC はサポートされません。
iPower の FECC	iPower エンドポイントから RMX 1000 に接続する場合、FECC は使用できません。
Tandberg エンドポイントとのインターオペラビリティ	Tandberg エンドポイントでは、DTMF コマンドを使用した場合のみ、PCM を使用することができます。FECC による PCM 操作はサポートされません。
OCS	OCS の Pool FQDN は DNS に登録する必要があります。登録なかった場合、OCS 経由の SIP 通話に異常が発生します。

未解決の問題

JIRA 番号	項目	概要
MCS-645	会議 ID	24 時間後以降に開始されるように予約された会議と同じ会議 ID を使用した場合、その会議を作成することができません。
MCS-468	CDR ファイル名	会議名に日本語を使用した場合、Windows システムに CDR ファイルをダウンロードすると、ファイル名が文字化けすることがあります。
MCS-473	Tandberg MXP とのインターオペラビリティ	H.263 4CIF/4SIF 会議の場合、Tandberg MXP でのビデオ表示はレターボックスとなります。
MCS-439	VSX8000 とのインターオペラビリティ	4SIF/4CIF 会議の場合、RMX 1000 は、VSX8000 と 2SIF 送信のネゴシエーションを行いません。
MCS-438	LifeSize Room System とのインターオペラビリティ	LifeSize Room System は、常時 G.722 音声でのネゴシエーションを行います。
MCS-420	Tandberg MXP とのインターオペラビリティ	1920 Kbps の HD ビデオスイッチング会議で、Tandberg MXP には、ランダムにビデオのフリーズが発生します。
MCS-419	LifeSize Room HD System とのインターオペラビリティ	RMX 1000 を使用した HDCP 会議で、LifeSize Room HD System には、その CP レイアウト画面の上部と下部に黒枠が表示されます。
MCS-408	Tandberg 880 および 6000E とのインターオペラビリティ	Tandberg 880 および 6000 E シリーズは、RMX 1000 からのビデオを受信できません。
MCS-402	Tandberg Edge95 MXP とのインターオペラビリティ	HD ビデオスイッチング会議において、Tandberg Edge95 MXP がコンテンツを送信した場合、HDX は、ゴーストやタイトル状のビデオを受信することがあります。
MCS-1124	Tandberg システムおよび Sony システムとのインターオペラビリティ	Tandberg システムおよび Sony システムは、SIP 経由でミーティングルームにダイヤルインすることができません。
MCS-1199	CMA Desktop との統合	CMA Desktop は 1920Kbps の HD 会議において、断続的に 4CIF ビデオを受信することがあります。
MCS-403	1920 Kbps の HD ビデオスイッチング会議	RMX 1000 が 1920 Kbps の HD ビデオスイッチング会議をホストしているときに、すべての HDX のサイトでパケットロスが発生します。
MCS-1201	録画表示	HD ビデオスイッチングと 720P の両プロファイルでは「録画表示」機能はサポートされていませんが、会議プロファイルの設定画面では選択可能になっています。